

研究所だより 10月号

# くろしお

発行:黒潮町教育研究所

幡多郡黒潮町佐賀1092番地1(黒潮町教育委員会内)

TEL 0880-55-3190 Fax 0880-55-3850

Email: kuroshio-l@kochinet.ed.jp

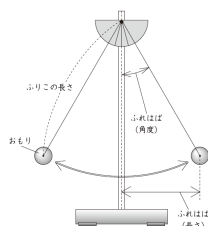
URL: http://www.kochinet.ed.jp/kuroshio-l/

運動会が終わり、陸上記録会・作品作り…。スポーツの秋・芸術の秋を満喫していることでしょう。いろいろなことに挑戦し、自信をつける機会がたくさんありました。自分の得意を見つけるにも良い機会になっているのではないのでしょうか。寒くなるころには自信を付け一回り大きく成長した子どもたちを見ることができそうですね。



## 全国学力・学習状況調査の活用について

各校で調査結果の分析をし、課題解決のために取組がされていると思いますが、ここで黒潮町で正答率が一番低かった問題の解答類型分析をしたいと思います。〈小学校:算数編〉



【小学校:算数B】2-(3) 正答率 43.0 無回答率 11.6

② ゆきさんは、ふりこの実験を3つします。

実験では、ふれはばは変えないで、ふりこの長さとおもりの重さを変えたときに、ふりが1往復する時間がどのようになるのかを調べます。

(3) 実験3ではおもりの重さを40gにもどし、ふりこの長さを変えて10往復する時間を調べ、表にまとめました。

実験3の結果

| ふりこの長さ (cm)   | 25 | 50 | 75 | 100 |
|---------------|----|----|----|-----|
| 10 往復する時間 (秒) | 10 | 14 | 17 | 20  |

「ふりこの長さを2倍に変えたとき、10 往復する時間は2倍になっていない」ことを、上の表の中の数と言葉を使って書きましょう。

▲正答率の低さも気になりますが、無回答率の11.6%も気になります。

▲記述式問題を苦手としている児童が多いのでは…

◎ここで、「平成25年度全国学力・学習状況調査 解説資料」(小学校算数)の解答類型に黒潮町のポイントを当てはめてみます。(詳しい内容は各校に配布されている資料をごらんください。)

正答の条件 ①基にするふりこの長さ比べられるふりこの長さ

②基にするふりこの長さの比べられるふりこの長さの関係を示す数と言葉

③基にする10 往復する時間と比べられる10 往復する時間

④基にする10 往復する時間と比べられる10 往復する時間の関係を示す数と言葉

全て書いてあるものが◎

| 解答類型             | 正解 | 黒潮町<br>解答率 |
|------------------|----|------------|
| 1(①②③④)          | ◎  | 23.3       |
| 2(①②③)           | ○  | 19.8       |
| 3(①②④)           |    | 2.3        |
| 4(②④)            |    | 14.0       |
| 5(長さと時間との対応が不適切) |    | 0.0        |
| 6(①②または①)        |    | 3.5        |
| 7(③④または③)        |    | 5.8        |
| 8                |    |            |
| 9(上記以外の解答)       |    | 19.8       |
| 0(無回答)           |    | 11.6       |

▲求められているものが全てかけている子は23.3%です。

▲求められていることが読み取れているでしょうか…

▲たくさんの情報の中から必要な情報を読み取ることができているでしょうか…

▲文章を書くことに抵抗があり、問題に取り組もうとしなかったのではないのでしょうか…

▲4の解答類型を見ると関係について書くことができていないのに証明するための根拠になる数字についてかけていないことがわかります。

紙面の都合上、簡単な分析しかできませんでしたが、正答率の低かった問題などに焦点を当て解答類型を分析してみるとつけなければならない力が見えてきます。各校でも同様の分析がされていると思いますが、参考まで。

\* 次回は中学校編を紹介します。

## 全国学力・学習状況調査の過去問題集を配布しました。

西部教育事務所よりデータをいただきました。DVD とプリントを小学校各校に配布しました。  
分析の結果から見えてきた課題・苦手だった問題を中心に取り組んでください。

### 研修報告

【授業力向上のためのカリキュラム・マネジメント研修】《領域部会》

平成25年8月13日  
高知会館

〔全体会〕 講義：教科外指導に期待されること

—わが教育実践を踏まえて—

文部科学省初等中等教育局 視学官  
杉田 洋

◇教育…Education を教授ではなく教育と訳した日本教育  
(教えるより育てる意図が強い)

◇日本の教育＝知・徳・体 バランスの取れた人間の骨格づくりをめざす

◇日本の教育の現状

- ・日本の子どもは自信がない＝自尊心が低い
- ・社会の変化(高齢化・少子化・労働意識・環境)による公共精神の欠如
- ・学校重点目標…たくさんあるのは重点ではない
- ・集団作りの認識のずれ…集団でなく組織にする

聞いたことは忘れ、  
見たことは思い出し、  
体験したことは理解する、  
そして発見したことは身につく

組織(チーム)とは  
集団でなければ解決でき  
ない問題を解決するところ

#### 1, 生きる力の育成と教科外指導の役割

領域としての道徳…思いやりとは何かを考える  
総合的な学習の時間・特別活動…体験等を通して深める

#### 2, 心を育てる道徳・特活・総合のそれぞれの役割

「道徳」の「道」とは、自分の歩むべき道  
「総合」の体験…体験が目的なのか手段方法なのかを明確にしておく

#### 3, 言語活動の充実

自分を大切にすることから主張は始まる  
表現することで脳に記憶される  
繰り返し思考させ output させる  
話し合い活動…本気で達成したいと思える内容について本気で話し合わせる

#### 4, 人間が人間を育てる

教育は人間と人間の関係の上に成り立つ

〔領域別：特別活動〕 「特別活動における話し合い活動と学級経営

—わが教育実践を踏まえて—

文部科学省初等中等教育局 視学官  
杉田 洋

特別活動＝体を学力を心を子どもたちの力で作る

話し合い活動で身につける力…聴く(思いやりの一歩・人権尊重の一歩)

自己決定力・自己指導能力  
条件的賛成(折り合いをつける)

パターン化から自発的に行動  
できるところまで導く

話し合いには言語  
の力が必要⇒教科  
の授業の中で力を

話せる子にするには  
発言のセンテンスを  
長くしなければなら

話し合いができる学級＝発言が認められる・個人が認められる学級

初めはパターン化からでいいのだと思います。発言できる環境をつくり、話し合うこと・自己決定の必要性を感じることで自発的話し合い活動ができるようになるのではないのでしょうか。